

特別連載

DAY

新企画&現場で役立つ
レク情報など満載!

特集

「活動」「参加」の改善で修了につながる

卒業型デイの作り方

新制度・報酬改定に
対応するデイ作り



編集部まとめ

人員配置・要件・実務のすべてがわかる

個別機能訓練加算まるわかり!

別売

6月号
対応版

お役立ち
ツールCD

定価600円
(+税・送料別) 発売中

創作人形／石井美千子
(タイトル: 幼子)

人間だもの

第3回 エンディングノートは要らない！？

高齢者の「終活」ブームはまだまだ衰えません。自分の最期の医療、葬儀やお墓、遺産相続の遺言などを元気なうちに「エンディングノート」に書くことを教える講座はどこも大盛況。みなさん必死で冊子に書きこんでおられます。肝心な時が近づいたころには、本人の認知症が進んでその冊子の存在 자체を忘れているケースをたくさん見てきました。ですから「エンディングノート」は、机にしまいこままで、誰かに託しておくことが大切です。



一方、「エンディングノートは要らない」という趣旨の本を書かれた人がいます。流通ジャーナリストの金子哲雄さんの奥さま、金子稚子さんです。哲雄さんは2012年、41歳の若さで肺カルチノイドのため旅立たれました。哲雄さんが亡くなる前日に書きあげた「僕の死に方」という本はベストセラーになりました。哲雄さんの旅立ちの1年後、稚子さんは「死後のプロデュース」という著書を記しました。

た。哲雄さんは、自身が亡くなった1年後に「金子哲雄を語る会」という大宴会を企画していました。私も招かれましたが、すべてにおいて「哲雄さんはまだ生きているが、その日は急用で来れなくなった」という設定で宴会が進行しました。友人たちは「哲ちゃんはなあ、最近仕事が忙しくてなー」と明るくスピーチし、帰り際にはみな稚子さんに「ご主人によろしくお伝えください」と挨拶していました。哲雄さんは1年後だけではなく、実は5年後、10年後もこのような様々なイベントを計画して稚子さんに託されたそうです。肉体的には死んでも社会的には生き続けることができるなどを、まさに身をもって証明しているわけです。

私は「死んだら終わり」派でした。しかし哲雄さんは、「死は終わりではない、死んだ後でも社会的に生きられる」と教えていました。死後の世界があるかどうかは分かりません。しかし死の向こう側を生きることができるような気が少ししてきました。



長尾クリニック院長
長尾 和宏 ながお かずひろ

1984年東京医科大学卒業、大阪大学第二内科入局、1995年兵庫県尼崎市で開業、外来診療と在宅医療に従事
日本ホスピス在宅研究会理事、日本慢性期医療協会理事、日本尊厳死協会副理事長、関西国際大学客員教授、東京医科大学客員教授(高齢総合診療科)、「病院でも家でも満足して大往生する101のコツ」など著書多数